

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 1日

事業所名 あさがおねっと守口

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	適切である	安全に過ごせるようスペースを確保していく
	2	職員の配置数は適切である	60%	40%	人手が足りない	支援員の補充を早急に行う
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	遊びエリア、勉強エリアに分けて活動している。テーブルごとにイラスト付きで何をやる場所か掲示している。絵カードやイラストで	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	60%	40%	PDCAサイクルを行っているがより多くの職員が参画することが目標	参画出来る機会を得られるよう努力していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	半年に一度モニタリング時に保護者アンケートを取り業務改善につなげている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%	ホームページで公開している。保護者向け評価表の結果を踏まえ、支援の質の改善を行う	全体への周知が不十分なため、再度周知を行う
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%		外部評価の機会を増やしていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	内部研修、外部研修を定期的に行っている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	アセスメントを行い児童発達支援計画書を作成している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	標準化されたアセスメントツールを使用している	必要に応じて保護者へ働きかけている
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	ガイドラインに基づき支援に必要な項目を選択した上で支援内容を設定している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	チームで行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%	担当者をローテーションで回し、内容が固定化しないようにしている	支援員の意見を参考に、固定化しないよう心がけている
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	80%	20%	している	成長過程に合った支援を心がけている

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%	おおむねしている	時間確保が難しい日があるため、改善が必要である
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%	おおむねしている	全支援員で情報共有出来るよう、時間の確保に努める
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	している	支援員全体で話し合えるよう努力していく
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	20%	している	必要に応じて担当支援員の参画も検討していく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	80%	20%	行っている	情報共有出来るよう、引き続き関係機関と連携していく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	60%	40%	医ケアが必要なお子様がいない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	60%	40%	医ケアが必要なお子様がいない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	している	相互理解を深めるよう働きかける
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	している	相互理解を深めるよう働きかける
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	年4～5回の訪問研修をして頂いている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20%	80%	今後行っていく	今後は状況を見ながら、機会を増やしていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	20%	80%	今後行っていく	今後は積極的に参加していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎後にその日の様子を報告し合うようにしている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	20%	80%	今後行いたい	今後は積極的に行っていきたい
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	60%	40%	契約時に説明している	説明が不十分と考え、今後は丁寧に対応していく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	している	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	20%	お電話、LINE、送迎時等に相談を受けているが、より相談し易い環境作りを行っていることが目標	より相談しやすい関係性を目指していく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	60%	年1回保護者会、イベント時に保護者の参加をいただいている。保護者会の回数を増やしたい	今後は保護者会の再開を目指し前向きに検討していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	対応窓口を設定。迅速に対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	定期的に会報を発行している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	個人情報全て鍵付きロッカーに保管している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	絵カード、イラストを活用。配布物にはルビを打っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	80%	今は出来ていない。感染予防が第一と考えている	感染状況を考えながら、前向きに検討していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	60%	40%	マニュアルを策定しているが保護者様への周知が不十分である	保護者への周知が十分に出来るよう改善していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	60%	40%	行っている	保護者への報告が十分でないため、会報やブログなどで周知していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	アレルギーがある子へのおやつ、食事提供は必ず保護者に確認し医師の指示に基づく対応をしている	必要に応じて保護者へ働きかけるようにしている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	今後は事例件数を増やしていく	迅速に作成し、支援員で共有できるよう心がけている
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	研修を積極的に行っている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	している	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。